

平成27年度 薬学部FD研究会報告

古野忠秀（文責）、脇屋義文、櫛 彰、山村恵子、河村好章、安池修之、
森田雄二、浦野公彦、小川法子、井上 誠（委員長）

愛知学院大学薬学部FD委員会

平成27年度薬学部FD活動としては、研究授業（「薬物作用学Ⅲ」：波多野紀行講師、6月24日）、講演会（「女性キャリアパス：人生90年時代～女性医師の立場から思うこと～」柳川まどか先生（名古屋大学医学部）、2月25日）、ワークショップ（第1回「学生の能動的・主体的な学習を促すためにこれから出来る事を考える」、8月4日；第2回「学習支援者に有効な学習コーチングの実践」、2月25日）を実施した。

薬学部では、2年次に留年する学生が多く、今年度は3年次での留年生も大きく増加した。平成27年度現在、ストレートで進級した学生が占める割合は、2年生で75.1%、3年生で63.6%、4年生で71.9%でしかなく、留年生の減少は学部をあげて解決しなければならない大きな課題の一つになっている。薬学部FD委員会では、この現状を踏まえ、①薬学部には多様な学力の学生が入学してきており、留年生を減少させるためには、学生の学力を底上げすることが必要である、②そのためには、成績上位の学生にも成績下位の学生にも能動的・主体的な学習を促す仕組みを構築することが重要であるとの見解の下、その実践のためには本学部の教員が共通認識を持って学生の指導に当たる必要があると考えた。そこで、名古屋大学高等教育研究センターの「優れた授業実践のための7つの原則」を基にして、今年度の初めに本学部の現状に沿うようにアレンジした以下の「5つの提案」をまとめた。

提案1 学生が教員と接する機会を増やす

学生は、集団の中の1人と見なされるよりも、1人の個人として見なされる方が、帰属意識や責任感を強く持ちます。学生が自ら積極的に教員に接するにはハードルが高いので、教員からきっかけを作り、学生との信頼関係を築いていきましょう。

提案2 学生が主体的に学習する環境を整える

大学教育においては、学生が主体的に学習する姿勢を身につけることが重要です。教員として、授業の内容を

充実させることも大切ですが、学生の知的好奇心を刺激し、学生がそれらの内容を主体的に学ぶ環境を整えることにも配慮しましょう。

提案3 学生が学習の進み具合を確認する機会を作る

学生自身が、学習目標にどの程度近づいているかを確認することは、学生がその後の学習を進める上で大切な情報になります。問題演習などによって、学生が自ら学習の進み具合を確認し、達成感を得て学ぶ楽しさを発見できるような機会を作りましょう。

提案4 学生が学習時間の大切さを認識するよう誘導する

時間の有効活用は、学生の学習成果を左右する極めて大きな要素ですが、そのことを認識していない学生は少なくありません。学生が時間の大切さに気づき、普段から時間を守る習慣を身につけ、学習時間を確保する重要性を認識するように誘導しましょう。

提案5 学生が高い期待を寄せられていると意識するよう刺激する

期待されていないとわかったら、学生の学習意欲は低下します。授業の様々な場面で学生を激励し、努力すれば到達できる具体的な高い目標を示すことで学生の学習意欲を掘り起こしましょう。

本提案は、薬学部の学生に対してよりよい教育を実現するための教員側の最小限の共通認識事項を具体的にまとめたものがある。今年度のFDワークショップとして、まず第1回では、学生の能動的・主体的な学習を促すためには、教員としてどのような仕組みを作り、どのような心掛けで支援すればよいのかを主テーマとして議論し、第2回目では学生の支援に有効な学習コーチングの方法論を議論した。

第 1 回ワークショップ

「学生の能動的・主体的な学習を促すためにこれから出来る事を考える」

第 1 回ワークショップは、「留年、休学、中退率の改善に向けた課題認識の共有と改善の方向性と意識の統一」および「学生個々の能動的、主体的な学習を促す現実的な明日からできる指導方法の考察」を目的に実施した。約 9 割の薬学部教員が出席し、基調講演の後、①学生との接触機会と頻度を増やす仕掛けづくり、②学生が主体的に学びへ向かう環境を整える、③学生自身が学習の進み具合を確認できる機会、④学生に学習時間の大切さを認識させる、⑤学生が高い期待を寄せられていると意識するよう刺激する、の 5 つのテーマを設定し、10 グループ（4～5 名／1 グループ）に別れて、各グループ 3 テーマについて（20 分／1 テーマ）議論した。各テーマは、アドバイザー、実習・PBL、講義について、講座配属前（1 年から 4 年春学期）と講座配属後（4 年秋学期から卒業）の大きく 2 つの時期に分けて、意見を出し合った。各々、よかった実践例、問題点、今後実践すべきことを 1 つの表にまとめた。最後に、全体で発表報告会を実施した。

学生と教員の距離感を見直し、学生から話しかけやすい機会や環境づくりとは？				
学年	アドバイザー制度・ゼミ	実習・PBL	講義(担当科目)	現実的な次の一手【実践】
前期 1年から4年前期	【Keep】 ・面談 【Problem】 ・特定の学生だけ相手にする	【Keep】 ・実習中の巡回 【Problem】 ・しかる、注意する	【Keep】 ・挨拶、自己紹介 ・資料の受付 【Problem】 ・教授室、研究室が入りづらい 【Try】 ・資料カードの配布	【Keep】 ・名前を覚え声をかける ・飲食を共にする
後期 4年後期から卒業	【Keep】 ・研究室旅行、飲み会 ・勉強、研究以外のことも話す ・指導する姿を見せる ・実験結果をマメに検討する	【Keep】 ・コミュニケーションを1人1人ととる ・ミーティングの回数 ・顔と名前を覚える ・実務実習先のコミュニケーション	【Keep】 ・学生それぞれに合った学習法の情報を与える ・毎回の授業のレポートを出させた	【Try】 ・アドバイザー学生人あたり5000円の補助 ・成績配布 年3回 ・面談からの飲み会 ・コミュニケーション
パーキングロット	【Keep】 ・教員が1Fフロアやカフェにいる時間を増やす			

学生と教員の距離感を見直し、学生から話しかけやすい機会や環境づくりとは？				
学年	アドバイザー制度・ゼミ	実習・PBL	講義(担当科目)	現実的な次の一手【実践】
前期 1年から4年前期	【Keep】 ・ランチタイムに集まる 【Problem】 ・成績を渡す際、洗いやらないでいる。制度が活用されていない 【Try】 ・クラブ活動充実させる	【Keep】 ・自主性、考える力 【Problem】 ・教員数が少ない 【Try】 ・毎年、竹島に行く	【Keep】 ・研究室へ訪問に来ることで、距離が近づく 【Problem】 ・授業時間がいっぱい使ってしまうため質問時間をとれない	【Keep】 ・講義後場の開講時に食事や飲み会 ・ランチセッション
後期 4年後期から卒業	【Keep】 ・卒業研究で指導教員と話す機会が得られる 【Problem】 ・ゼミでの4年生のスペースが少なく自毛にこもる ・学習スペースが少ない	【Keep】 ・教員全員で学外実習生の面倒を見る 【Problem】 ・6年生の自習スペースが少なく自毛にこもる ・実習の悩みを相談 【Try】 ・自主学習スペースの充実	【Keep】 ・学生それぞれに合った学習法の情報を与える ・毎回の授業のレポートを出させた	【Try】 ・コーヒーマーカやフリスグロを導入 ・コンビニ、スタバ、場所をつくる ・食堂を充実させ ・教員数を増やす ・アドバイザー学生自己紹介カードを配
パーキングロット	【Try】 ・FD予備で飲み会	【Try】 ・家電製品を置きやすい体制に		

学生が主体的に学びへ向かう姿勢や習慣づくりの為に有効な刺激や環境、機会提供とは？				
学年	アドバイザー制度・ゼミ	実習・PBL	講義(担当科目)	現実的な次の一手【実践】
前期 1年から4年前期	【Keep】 ・面談時間を示す 【Try】 ・イチローを例に出す（繰り返し行うことの重要性を問う）	【Keep】 ・実習の予習の具体的な課題を出す 【Problem】 ・実習は合格するものと思っている ・実習と座学のギャップ	【Keep】 ・レポートのテーマを学生に選択させる ・1つの科目を徹底的にやるよう指示する 【Try】 ・月曜の朝一に試験	【Keep】 ・目標や職業、人について個人的に話す ・将来の夢を明確させる ・自習室を増やす
後期 4年後期から卒業	【Keep】 ・ご褒美を与える ・研究の面白さを伝える ・研究目的の明確化 ・上級生と話す機会を設ける機会を持たせる 【Problem】 ・成績が悪くない時に人格否定する ・「進級(卒業)する気があるか」と聞いた	【Keep】 ・主体的に学ぶ学生と一緒に勉強(行動) ・勉強が苦手な学生に対して、分からない部分を聞いて基礎を一緒に勉強する	【Keep】 ・成績の明示 【Problem】 ・過去の問の依存	【Problem】 ・奨学金の増額 ・図書館の土日開放 ・快適な勉強空間の整備(エアコン) ・学内での自習室
パーキングロット			【Try】 ・一人で学ぶ	

学生が主体的に学びへ向かう姿勢や習慣づくりの為に有効な刺激や環境、機会提供とは？				
学年	アドバイザー制度・ゼミ	実習・PBL	講義(担当科目)	現実的な次の一手【実践】
前期 1年から4年前期	【Problem】 ・助教がアドバイザーでないため、学生と話ができない 【Try】 ・「夢発見セミナー」など講演会を行う	【Keep】 ・フジテレビを5,6年生が内 ・グループをくじ引き 【Problem】 ・レポートを提出しない学生を叱ったら次も出さなかった	【Keep】 ・DVDを多用して興味を持たせた 【Problem】 ・試験の解説講義をしたが、再試験でも不合格が多かった	【Keep】 ・講義終了前に確認テストを行ったり授業中静かに穴場も減った
後期 4年後期から卒業	【Keep】 ・成績が上がった学生を褒める ・学生が提案した実験条件を採用 【Problem】 ・学生同士の意見交換がない ・問題解決能力がない	【Keep】 ・教員に研究時間を与え、学生と協働した研究体制を築いた ・薬系サークルを増やす	【Problem】 ・CBTの勉強をさせたが、下位の学生は結局勉強しなかった	【Try】 ・講義後、学生が先生に教えあうピアクチャー時間を作る
パーキングロット	【Try】 ・カフェなどリフレッシュスペースをつくる ・図書館の24H開放	【Try】 ・自習室を増やす ・ターウィンの法則に従う		

学習者自身が自己の学びに対するPDCAを深めるために支援できること、促しとは？				
学年	アドバイザー制度・ゼミ	実習・PBL	講義(担当科目)	現実的な次の一手【実践】
前期 1年から4年前期	【Keep】 ・成績配布の際、個人面談を行う 【Try】 ・学生にノートを作らせ、学んだことを書かせ、アドバイザーがチェック	【Keep】 ・個別に語り掛け、質問する 【Try】 ・学習目標を細かく設定する、かつそれらの目標の体系を明確にする ・講義の補修会開催	【Keep】 ・成績に反映しない確認テストを行う 【Problem】 ・やる気のない学生には逆効果 ・講義の補修会開催	【Keep】 ・中間試験の実施 ・様々な学年が混ざった状態で英語の試験の番号と試験の表を作り、終わったら時にラベルを貼らせる
後期 4年後期から卒業	【Keep】 ・学生同士で問題を出し合い、勉強する ・飲み会をする	【Keep】 ・実習後の報告会		【Try】 ・成績の順位の開示(科目別) ・授業内容のチャートを利用する ・この研修を学生にやってもらう
パーキングロット	【Try】 ・学生同士での反省会の開催	【Try】 ・他大学との交流	【Try】 ・試験問題について、確認・理解分野を分けて作成する	

学習者自身が自己の学びに対するPDCAを深めるために支援できること、促しとは？				
学年	アドバイザー制度・ゼミ	実習・PBL	講義(担当科目)	現実的な次の一手【実践】
前期 1年から4年前期	【Keep】 ・単位取得状況を教員と確認 【Try】 ・アドバイザー以外の教員も学生に積極的に声掛け	【Keep】 ・レポート ・プレゼンテーション ・意見交換コミュニケーション 【Problem】 ・実習後当日の実習内容を〆で確認	【Keep】 ・テスト結果 【Problem】 ・過去問配布で理解したつもりになった ・再試験生の試験成績が悪化する	【Try】 ・定期的にアドバイザーとのミーティングを行う ・テストの平均点、最高点、最低点を点数のみ公開する
後期 4年後期から卒業	【Keep】 ・ゼミを行う ・実験のプランを立てさせる 【Problem】 ・ゼミに集まらない ・学生を放っておいたら卒業に落ちた	【Keep】 ・実習後の報告会 【Try】 ・友人に講義内容を説明する(発表)	【Keep】 ・講義研究テーマの中で興味がある卒業テーマを見つけて出させる ・講義の確認試験結果を明示する 【Problem】 ・薬ゼミシステムを用いた学習	
パーキングロット	【Problem】 ・底線のフィードバックが不十分	【Problem】 ・留学生のフォローアップが難しい	【Try】 ・全員卒業 ・社会的技能尺度のテストを行う	

学習計画をつくる重要性やタイムマネジメントの必要性を認識させるには？				
学年	アドバイザー制度・ゼミ	実習・PBL	講義(担当科目)	現実的な次の一手【実践】
前期 1年から4年前期	【Keep】 ・1年時にタイムマネジメントの大切さを伝える 【Try】 ・定期テスト後、面接 ・イベントでタイムマネジメントのゲームを行う	【Problem】 ・高校までに認識してもら 【Try】 ・集中力 ・ノートの取り方を教える	【Keep】 ・出席が楽しくなる講義を行い、遅刻・欠席を減らす ・学習することで点数のとれるテストにする	【Keep】 ・気づくまで放置 ・目標の大切さを話し合う
後期 年後期から卒業	【Problem】 ・卒業の計画を立てさせたがチェックを怠り落ちた 【Try】 ・自己研鑽してもら ・身近な 目標と達成計画 を立てさせる	【Keep】 ・出席の待ち時間 ・学会発表に向けデータをまとめる 【Problem】 ・無理な計画を立てさせ、だめになる		【Try】 ・出席をとらない ・学習計画の立てを指導する ・先輩からの成功例・失敗例を語ってもらう ・早速早起き ・1年生と6年生で話をさせる
パーキングロット	【Try】 ・概を教育する ・PDCAを繰り返す	【Try】 ・ タイムテーブルを作ってもら	【Try】 ・4年生まで国試と重ならない	

学習計画をつくる重要性やタイムマネジメントの必要性を認識させるには？				
学年	アドバイザー制度・ゼミ	実習・PBL	講義(担当科目)	現実的な次の一手【実践】
前期 1年から4年前期	【Keep】 ・タイムマネジメントについてプレゼンさせる ・「早くに勉強始めた方がいいよ」と言う	【Keep】 ・作業時間を区切る 【Problem】 ・長(自由にさせておく)と確認になる	【Keep】 ・各科目の可否判定を高くする ・配布資料の事前配布をし、予習させる 【Problem】 ・講義を真面目に聞いていない	【Keep】 ・卒業生の話を聞くと時間が足りないという危機感を持つ
後期 1年後期から卒業	【Keep】 ・先輩から実感のこもったアドバイス 【Problem】 ・学生に任せていたら試験に間に合わなかった 【Try】 ・1日の生活を 円グラフ にして時間の無駄を実感させる	【Keep】 ・発表時間を守る ・期日までに提出物を提出する	【Keep】 ・明確な目標(国試など)があるとやる気が出る	【Try】 ・タイムマネジメントきちんとして、進級卒業に合った 学 の話を聞く機会を設ける。 ・1年間のタイムスケジュールについて 具体例 (成功例・失敗例)を示す。
パーキングロット	【Keep】 ・時間の大切さを分かっているけど実行・反映できていない			

褒める、励ます、見守るなど具体的なサポートで学習者の期待感を醸成するには？				
学年	アドバイザー制度・ゼミ	実習・PBL	講義(担当科目)	現実的な次の一手【実践】
前期 1年から4年前期	【Keep】 ・公平に扱う ・成績を個々に把握し、アドバイスする 【Try】 ・ アドバイザー 単位で飲み会	【Keep】 ・実験結果を自分で考察するように話しかける ・個別で 褒める ・ 名前を覚えて呼ぶ	【Keep】 ・課題をクリアしたより高いレベルの課題を与える(個々に対応) ・授業中、質問して手を挙げさせる	【Keep】 ・話す機会を増や ・コミュニケーション(飲み会を含めて) ・個人に合わせた指導をする
後期 年後期から卒業	【Keep】 ・ 褒める ・方法論を伝え、自分で運用させる ・結果のみで評価する ・全てを指示して卒業を進めさせる 【Try】 ・ゼミ単位で飲み会	【Keep】 ・患者から 褒められる ・良いことは褒めて、悪いことは指導する 【Problem】 ・ ボランティア をさせる ・指導業務は何でも 褒める こと	【Keep】 ・ 薬剤師の将来像 を具体的に話してやる気を起こさせる	・全てを指示せず自分で考えるよう指導する ・ 個人の信頼 を築いておく(名前、成績など) ・積極的に良いことは 褒める
パーキングロット			【Try】 ・2年生は人数が多いので半分に分割して講義する	

褒める、励ます、見守るなど具体的なサポートで学習者の期待感を醸成するには？				
学年	アドバイザー制度・ゼミ	実習・PBL	講義(担当科目)	現実的な次の一手【実践】
前期 1年から4年前期	【Keep】 ・社会的に期待されていることを知らせる ・資格が取得できるという特別感 【Problem】 ・ アドバイザー の学生と話す機会がほぼない	【Keep】 ・新しい機能をぜひフィジカルアセスメントの実習を行う 【Try】 ・早期体験学習で薬局の指導員から指導してもらう	【Keep】 ・期待されていることを伝える ・ 名前を呼んで 質問に答えさせる 【Problem】 ・できないことを詰問 ・教員が教えたつもり	【Try】 ・医療現場で ボランティア を行う ・患者様苦痛の軽減を増やす ・「卒論発表優秀賞」などの賞をつくる ・卒業で口頭試問
後期 年後期から卒業	【Keep】 ・社会的に期待されている職業だと教える ・セミナーで学生の学習効果と仕事のリンクを説明し、 褒める 【Try】 ・ 現場薬剤師 の活動をセミナーで知ってもらう	【Keep】 ・実習の発表に対して、 良い点・悪い点の両方 を伝える ・薬剤師が行うチーム医療を伝えている 【Problem】 ・業務実習で「頑張れ」と、頑張っている学生を励ます	【Keep】 ・確認テストで達成感を与える 【Problem】 ・レベルの設定、上位者には簡単すぎるとやる気を削いでしまう	・社会で活躍している卒業生の話を振る機会をつくる ・「夢発見セミナー」など講演会を行う ・学生主体の行事(文化祭、学祭) ・薬剤師の重要性があることに強調
パーキングロット	【Problem】 ・できないことが多く自分自身に期待しなくなってしまう。			

このワークショップを通じて、学生の主体的な学習態度、意欲形成において「教育コーチング」を実践する必要性をどの程度感じたかについて、以下のような回答が寄せられた。(一部抜粋)

- ・基本的には必要だと思います。
- ・とても強く感じた。(複数)
- ・特に成績が下位の学生には必要な、と思った。
- ・実践は大事と思うが、甘やかされていると誤解されないコーチングができるか心配。
- ・教育コーチングの意味がよく分かった。非常に細やかな接し方で相手できる人数は少数に限られると思った。(複数)
- ・普通
- ・小中高でしっかりやっていたのであれば、大学では実践しなくてもよいと思います。
- ・これまでの自分はteaching主体であったが、それが奏功しない学生がいたのは確か。Coachingの必要性があると思います。
- ・必要性はあると思うが、マンパワーとのバランスが大切だと思った。
- ・研究室のように頻繁に顔を合わせる状況でこそ有効で、問題となっている留年生などが出る2年生、3年生に対して時間的に教員が向き合えるか疑問である。
- ・実践するのがなかなか難しいですが、コーチングの重要性がよく分かったので、できることからやっていかなければならないと思いました。
- ・現状の再認識ができた。
- ・できるだけ早く実践した方がいいと感じた(複数)。

具体的ですぐ実践したいアイデアについては、以下の回答が寄せられた。(一部抜粋)

- ・定期試験の点数の開示 (複数)
- ・どうしても成績が上がると思うか学生に聞いてみたい。
- ・学生に対しても学習時間の大切さ、使い方などについて話し合ってもら。学生が主となる行事を増やすなど。
- ・教員数の増員。アドバイザー費の支給。
- ・学生の顔と名前を覚える。(複数)
- ・講義後のテスト
- ・定期テスト前にアドバイザー学生と面接する。
- ・アドバイザー制度の充実が喫緊であると思った。(複数)
- ・学生に対する指導を、学生が主体で考えることができるように変えていきたいと思います。
- ・学習支援に対する大学の補助の充実

- ・PDCAサイクルを短くすることが大切な、と思いました。
- ・PBL等で上級生が下級生のサポートを行う体制の整備
- ・傾聴、質問、承認。
- ・学生自身に気づかせる。
- ・学生に目的意識を持たせること。特に、授業や実習での初日の重要性を感じ、実行していきたい。
- ・学年間の交流の場をつくるとよいと思う。
- ・他大学との交流。学生にも同じテーマで討論してほしい。
- ・学生との茶話会やイベントなど、交流を図るもの。

今後、FD で取り上げてほしいテーマについては、以下の回答が寄せられた。(一部抜粋)

【緊急性の高いテーマ】

- ・大学生の発達障害の対応策
- ・教員評価、モチベーション
- ・研究意欲の向上 (研究機関としての大学の在り方)
- ・学生の評価方法
- ・大学教養教育のあり方について
- ・大学の教育環境 (ハード面) について
- ・薬学部の現状に沿った教育改革
- ・アドバイザー制度
- ・大学の方向性。入試の方法。
- ・今回の検証。机上の話だけでなく・・・。
- ・学生の学力向上策。
- ・教育に対する各教員の認識度について。
- ・学生間の教え合い
- ・文章作成能力の低さ
- ・授業アンケート内容の改善策

【中長期で解く組む必要性があるテーマ】

- ・愛知学院大学薬学部としての特色をどう出すか。(複数)
- ・後進の育成
- ・義務教育と高等教育の違いを親にも認識してもらう。
- ・薬学教育のあり方
- ・教育法を体系的に学ぶ方法
- ・薬学教育の将来
- ・カリキュラム、アドバイザー制度。
- ・学生個々に合った指導方法を実践するためにはどうすればよいのか。
- ・授業アンケート
- ・教科の連携について。ルーブリック評価について。
- ・学習の必要性を考えさせるためには、どうしたらよいか。

- 自由記述には、以下の回答が寄せられた。(一部抜粋)
- ・基調講演がとてもよかったので、もう少し時間を取ってもよかった。(複数)
 - ・ワールドカフェのテーマが、何を求められているのか分かりづらかったです。
 - ・教員自身が変わらなければ、結局何も変わらない。
 - ・とても勉強になりました。
 - ・メンバー固定だと最後にまとめやすい。(複数)
 - ・学生も同じテーマで PBL をして、どのように思っているのか知りたいと思いました。
 - ・発表時間が短いかと思ったけれど、意外と簡潔にまとめられていてこの方がよかった。
 - ・色々と考えさせられるテーマだった。

これらのことから、目標としていた教員個々の知見集約と集合知の共有は、ある程度達成されたと思われる。教員の意識がまとまり始めたところで、次回のワークショップのテーマとしては、さらなる改善アクションを目的に学習コーチングについて討論することにした。

第2回ワークショップ

「学習支援に有効な学習コーチングの実践」

第2回ワークショップは、「現行制度の下で、学習者がより効果的な学びの機会や気づきの機会を持てるように、実践的な教育コーチング (面談や指導の仕方など) を学ぶ」ことを目的に実施した。薬学部教員全 44 名中 39 名、および非常勤教員 3 名が出席した。まず、第1回のワークショップで議論した内容を振り返った後に、基調講演を実施した。その後、6 グループ (6 名/グループ) に別れて討論した。

対応が必要な学生として、①教員からすべてを教えてもらえると思っている学生、②頑張っているのに成績が上がらない学生、③授業を欠席しがちの学生、④授業に集中できない学生の 4 例を想定した。これらの例に対して、①アドバイザー制度期間中の 4 年春学期までの学生、②講座配属中の 4 年秋学期以降の学生に対してどのようなコーチングを実施するのが望ましいかについて討論した。また、新たな成長支援機会の創出として、授業内および授業外で、①教員ができること、②在学生を巻き込んでできること、③保護者を巻き込んでできること、④地域・企業を巻き込んでできることを討論した。討論は、1 テーマにつき 30 分間行い、前のグループが残っていたメモ書きを基に討論を進めていく方式を採用した。最後に、全体で発表会を行い、質疑応答を行った。

質疑応答の詳細は、「第2回ワークショッププロダクト」として後掲した。概要を以下にまとめる。

【コーチング】

①教員からすべてを教えてもらえると思っている学生に対しては、

(4年春学期までのアドバイザー制度)

- ・高校と大学の違いについて話をする（自主性の重要性）。
- ・すべてに正解はないことを実感させる。
- ・将来何がしたいのか？そのために今どんな知識と技術を身につける必要があると思う？と問いかける。
- ・面談の回数を増やす。

(4年秋学期からの講座配属)

- ・「まず調べろ」と言う。
- ・「～について教えて」と言う。
- ・傾聴する。

②頑張っているのに成績が上がらない学生に対しては、

(4年春学期までのアドバイザー制度)

- ・タイムスケジュール（特に勉強）を聞く。
- ・先輩と勉強の仕方について話をする機会を作る。
- ・個室で「思い」を聞く。
- ・あえて距離を置き、丁寧に対応しないようにする。
- ・勉強の仕方、ノートの取り方などを教える。
- ・きめ細かく接触する。

(4年秋学期からの講座配属)

- ・2人きりで現状を聞く。
- ・頑張るだけでは意味がなく、成果を挙げることに意味があることを理解させる。
- ・傾聴する。

③授業を欠席しがちの学生に対しては、

(4年春学期までのアドバイザー制度)

- ・何のために大学に入ったのか、期待したことは何なのか、原点を再確認させる。
- ・小さな目標を立てて達成したら褒める。達成できた要因を振り返らせる。
- ・転部、進路変更を勧める。

(4年秋学期からの講座配属)

- ・連絡を取り続ける。
- ・目標を語らせる。

④授業に集中できない学生に対しては、

(4年春学期までのアドバイザー制度)

- ・睡眠時間、食事の習慣についてまず確認する。
- ・違う進路を勧める。

(4年秋学期からの講座配属)

- ・時間を決めてはじめをつけさせる。
- ・「今日は集中していたね」「今日はイマイチだったね」などと評価してあげる。

【成長支援機会の創出】

①教員でできること

(授業内)

- ・学生同士で教え合う時間を作る。
- ・個別の質問を全体にフィードバックする。

(授業外)

- ・アドバイザーが関わるイベントを増やす。
- ・学会に連れていく。

②在学生を巻き込んでできること

(授業内)

- ・上級生が低学年生に教える機会を作る。
- ・実務実習を終えた5年生が、授業で学んだことがどんなところで役立つのか話す機会を作る。
- ・他学部（歯学部）の学生と交流する。

(授業外)

- ・アドバイザー主催の学年横断の飲み会をする。
- ・部活動を活発化する。
- ・配属学生が研究室の紹介をする。
- ・学生がアドバイザー教員を指名する。

③保護者を巻き込んでできること

(授業内)

- ・保護者による授業参観を実施する。
- ・授業料について学生自身に考えさせる。

(授業外)

- ・学年横断型の保護者交流を実施する。
- ・学習サポートについて保護者にスモールグループディスカッションを行い、発表してもらう。

④地域・企業を巻き込んでできること

(授業内)

- ・患者さんに体験談を講義してもらう。
- ・現場の声を早い時期から聞かせる機会を作る。
- ・薬の開発者自身に開発エピソードについて話してもらう。

(授業外)

- ・他大学の薬学生とのディスカッションの機会を作る。
- ・学生による体験講義を実施する(対保護者、対地域、対高校生)。

ワークショップ終了後に実施したアンケートの中で、今回のFDを通じてすぐ実行したい方法やアイデアを聞いたところ、

- ・アドバイザー制度を充実させる。
- ・学生の学会参加（交通費）支援（複数）
- ・文科系のサークルや研究会（たとえば、漢方研究会、生薬研究会、薬理研究会など）を活発にしていたきたい。

- ・学年横断型の保護者同士の交流会
- ・縦の繋がりを作る為に定期的に集まる機会をつくる。
- ・他大学の薬学生とのディスカッション
- ・TV番組の「しくじり先生」のような、失敗談を語ってくれる卒業生がいたらオファーしたいな、と思いました。
- ・6年生からスマホやゲーム機を日中は預かる。
- ・学生によるプレゼン
- ・学生間のティーチング
- ・法人か同窓会から支援してもらう。
- ・成績が下位の学生に対しては、コーチングなどを行なう専門のスタッフがいてもいいと思った。
- ・現在のアドバイザー制度では、教員による差が大きすぎると思う。
- ・学部として問題のある学生の抽出と対応。
- ・1年生入学後のウェルカムパーティーは、上下のつながりに有効かと思いました。
- ・薬剤師会の勉強会につれていく。
- ・講座内で研究室にこない学生がいるので、今日出た皆様の意見を参考に対応したい。
- ・早期体験に「学会参加」を加えられないのか？東海支部会なら年2回。そのうちひとつが静岡でももうひとつが三重、岐阜、愛知のどれかなら可能では？
- ・学生へのアプローチの仕方。
- ・教員側の教育に対する共通認識の必要性。
- ・薬剤師の職能がイメージしやすい内容を講義に取り入れる。
- ・学生に声をかけ、話を聞くこと。
- ・留年生&卒延生を減らすには何が必要か。

などの意見が寄せられた。

また、緊急性の高い改善テーマとしては、

- ・授業アンケート（複数）
- ・研究しやすい大学環境づくり
- ・（大学で教える事ではない事は承知していますがあまりにできていない学生が多いので）あいさつ、生活態度等、大人としての基本的なことを身につけさせる。
- ・大学では高校までと異なり、自主的に学ぶ必要があることを学生に教える。
- ・学生をやる気にさせる指導方法論
- ・コミュニケーション能力の低い学生のコーチングのポイント
- ・学生のうつ病対策
- ・より質の高い学生の確保
- ・2～3年生での成績下位者への対応→進路変更、(転

- 部)に対するコンセンサス・マニュアルの作成。
- ・低学年からの効率的な学習
- ・対応と実行に対する検証について
- ・新コアカリキュラムの科目間のつながりや関連性
- ・モチベーション向上を含めて学力向上（これまでも行っていますが）。（複数）
- ・留年生&卒表延期生を減らすには？（複数）
- ・薬剤師国家試験に合格できる学生を育成する
- ・教育コーチングの手法
- ・実務実習中の学生のメンタルケア
- ・国試対策実施中のメンタルケア”

との意見があった。

中長期で取り組む必要性があるテーマとしては、

- ・研究の推進
- ・薬学部のアピール
- ・薬学（大学）教育の在り方
- ・教養教育の在り方”
- ・研究意欲の高い学生を増やす方法
- ・より良い入学生の確保（複数）
- ・学習意欲の無い、薬剤師になる気がない（何も考えず薬学部に入ってしまった）学生に対する対応
- ・上下関係の形成
- ・大学で先生として学生から尊敬されるにはどのようなヒトであるべきか
- ・発達障害のある学生への支援について（複数）
- ・後継者の輩出（研究者、指導者、次世代の教員）
- ・学生の学力改善
- ・今回も行った「あらたな成長支援機会の創出」の具体化・現実的対応”
- ・留年率を下げるためには
- ・薬学部における反転授業への取り組みとその成果
- ・大学の目標と、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマシーポリシーの見直し
- ・愛知学院大学薬学部の方向性
- ・研究に興味を持たせるには？
- ・愛知学院大学薬学部の魅力を高める教育について
- ・コーチング技法の実践
- ・成績の2極化の解消・改善
- ・一般論ではなく本学薬学部学生の教育に関するテーマ
- ・留年生&卒延生を減らすには何が必要か（複数）
- ・アドバイザー学生（2～4年）との接点を持つことが挙げられた。

最後に、自由記述としては、

- ・講演は薬学部の状況にあったもの、大学にあったものがよい。（複数）
- ・教育コーチングの宣伝だけに終わった感が強い。教

員コーチングの実際の方法論の話にしてほしかった。(複数)

- ・テーマを今以上に本学部の現状と関連のあるものにして欲しい。
- ・学部としてどう改善できるかを考えてほしい。
- ・グループワークの中で大学生に対してコーチングを行う事への疑問の声がありました(コーチングは小・中学生の段階で行うべきとの声あり)。コーチングに対しての正しい認識がされていない様なのでコーチングについての理解を確認する必要がある様に思いました。
- ・コーチングについての講演では成功例のみが紹介されていましたが、失敗例についても聞きたかったです。(複数)
- ・テーマ2の講座配属については、研究についてか勉強についてかどちらについて話し合うべきか分かりにくかったと思います。テーマ3もとても難しかったです。テーマをもう少し明確に設定してもらえると話し合いもスムーズに進むと思います。
- ・コーチングについて学ぶことができ、有意義な日となりました。ありがとうございました。
- ・教員同士が話し合えたことが貴重であった(テーマ以外のことで)
- ・コーチングの講演は非常にためになった。もっと長く(90分ぐらい)聞きたかった。(複数)
- ・WSだけでなく教育に関する講演会を行なって欲しい。
- ・普段行っている方法について振り返る良い機会となりました。しかし、薬剤師という資格を取得するた

めに来ているはずの学生に対してコーチングを行うのはどうなのかと感じました。もっと目標を学生自身が気付ける環境が必要なのだと思います。

- ・今回、テーマが難しかったが、グループで話すことでアイデアを出すことができた。ありがとうございました。(複数)
- ・前回のFD内容はほぼ覚えていなかった。前のチームで集まって復習したかった。隣同士では無理。

【総括】

今年度は薬学部FD活動として、1回の研究授業、1回の講演会、2回のワークショップを実施し、それぞれに多くの教員が積極的に参加した。特に、ワークショップには、ほぼ全ての教員と非常勤教員の参加が得られた。また、ワークショップのテーマにつながりを持たせ、初回は学生に能動的・主体的な学習を促すためにできることを考え、2回目はそれに関するコーチングについて議論した。各グループのディスカッションと最後の総合討論は、大いに盛り上がった。

ワークショップを通じて、学部教員が抱えている問題意識や危機感の共有には進展があったと考えられる。今後、教員が取り組む必要があると考えているテーマに共通性が高いことから、そのことをうかがい知ることができる。学生に主体的な学習を促すための仕組み作りやそれを実現させるための教員のスキルアップなどが求められている。薬学部FD委員会では、これらの取組みを通じて、薬学部の全入学生に対して、多様な視点から高度な医療人専門教育を推進するサポートを進めていく。

第 2 回ワークショッププロダクト

テーマ① 【4年前期まで】アカデミックアドバイザー制度				
投入ケース 対応が必要な学生例（ベルナナ）	教員から すべてを教えてもらえる と思っている学生	頑張っているのに 成績が上がらない学生	授業を欠席しがちの学生	授業に集中できない学生
①最初のアプローチ ・最初の第1声 ・アイスブレイク ・演出 ・環境づくり など	・何を迷っているのか？尋ねる ・あえて何もしない ・必要な情報はどれだけあると思う？	・1日の時間の使い方、タイムスケジュール（特に勉強）を聞く。 ・先輩・勉強の仕方について話をする機会を創る ・勉強方法を探ねる ・勉強方法を聞く ・何を一番頑張っているのか？聞く	・授業に出ずにやっていること、熱中していることを確認する ・とにかく話を聴いてみる ・病気のほか？言い訳なのか？ ・連絡をとっていたのか？ ・理由をたずねる ・進路適正の再確認 ・理由はあえて聞かない	・理由を聞く ・じつと見つめて「どういう人間になりたい」と質問する ・何で薬学にきたの？その理由をたずねる ・睡眠時間、食事の習慣についてまず確認する
②学生から悩みや課題を引き出す効果的な質問・対話とは？	・どのような能力を身に付けたいか？を話をする ・高校と大学の違いについて話をする（自主性の重要性） ・すべてに正解はないことを実感させる	・自分では問題についてどう考えるかを聞く ・問題点洗い出し	・自己体験、経験、特に「失敗談」を話してみる ・進路について自ら考える機会を提供する	・何なら集中できる？ ・集中できない理由、阻害するものごとを考えさせる
③学生に変化と行動を促すアドバイスや教育コーチングとは？ ・例示、質問 ・褒め、励まし など	・自分で考えて、行動し出来たものの喜びを実感させる ・知らせる方法を教える ・曾しか教えない ・肉付けは自分でやるのだ ・失敗したときに「ほらね！」という	・何の勉強方法でつまづいているか聞いてみる ・御褒美を設定する ・テストを小刻みに実施して、成績【得点】が少しでもUPしたら褒める ・わかる事が増えた？ ・他にも面白い事見つけた？発見できた？	・何の為に大学に入ったのか、期待した事は何なのか、原点を再度確認させる ・目標をたてさせる	・座禅、書経など勤める ・甘味、チョコなど配る ・相手の言い分をじっくり聞いた上で「あなたの本気モードが見てみたい」と声掛ける
④面談後のフォローの在り方は？ ・日々の声掛け ・次の接触 など	・成功したら褒める。 ・次の機会に結びつけるようにする。 ・褒める	・きめ細かい接触（成績の確認や勉強方法の確認、傾聴） ・どこまでやるのか？を目標たてさせて確認を教員と一緒にやる	・小さな目標をたてて達成したら褒める、その達成要因を振りかえさせる。 ・転部、進路変更も進める 「君はまけたんじやない、相手があわなかっただけ」	・少しずつ、集中できる時間があれば良い ・興味ある分野に行く

テーマ① 【4年前期まで】アカデミックアドバイザー制度				
投入ケース 対応が必要な学生例（ベルナナ）	教員から すべてを教えてもらえる と思っている学生	頑張っているのに 成績が上がらない学生	授業を欠席しがちの学生	授業に集中できない学生
①最初のアプローチ ・最初の第1声 ・アイスブレイク ・演出 ・環境づくり など	・「大学とは」という話を最初にする ・重要な情報は自分で必ずメモするように話す ・自分でできるように話す ・自分で調べてもらう ・大学に入った目的を聞く ・大学は自分の学びたい事を学ぶ場所である事を話す 何かの機会に ・学生とあえて距離を置いて、授業のプリントなどを丁寧にしないようにする←いろいろ調べて復習することに意味がある	・勉強方法を聞く ・個室で「思い」を聞く ・学生とあえて距離を置いて、授業のプリントなどを丁寧にしないようにする←いろいろ調べて復習することに意味がある	・なぜ欠席したのかダイレクトに呼び出して、理由を聞く ・3回無断欠席したら永平寺へ！ ・保護者に出欠を連絡する	・夜間のアルバイトを禁止 ・スマホを回収 ・面白い授業を心がける ・座席を一番前にする
②学生から悩みや課題を引き出す効果的な質問・対話とは？	・今一番悩んでいる事は？→これまでに自分から何かを学んだことはなしの？	・授業の受け方、勉強の仕方 ・同じような体験をして成功した先輩の話を聞き、参考にする	・「最近どう？」とやり取り、その学生の現状を把握する。 ・将来何をしたいか？ ・学生のバックグラウンドを話す事で引き出す。	
③学生に変化と行動を促すアドバイスや教育コーチングとは？ ・例示、質問 ・褒め、励まし など	・将来像を明確に ・卒業後、どんな自分になりたいか？思いを描かせる ・将来何をしたいのか？そのために今どんな知識と技術を身に付ける必要があると思う？	・百マス計算 集中力を養う ・勉強の仕方、メモの取り方などを教える ・専門外の科目についての相談の場合は、専門の先生のところへ行くようアドバイス	・学生の夢や未来を意識した声掛け ・学生が違う志を持っていたら転科を考える声かけ ・全出席でAA 学生にプレゼントを ・毎回、小テスト	・永平寺に行く？ ・違う進路をすすめる ・全出席でAA 学生にプレゼントを ・毎回、小テスト
④面談後のフォローの在り方は？ ・日々の声掛け ・次の接触 など	・面談の回数を増やす。 ・3か月に1回、面談カードなど工夫する	・ノートの確認 ・成績結果をふまえて、フィードバックにどうするか相談 ・教育専門のカウンセラーを配置	・まめに連絡をとる ・教育専門のカウンセラーを配置	

テーマ②	【4年後期以降】 講座配属			
投入ケース 対応が必要な学生例（ペルソナ）	教員から すべてを教えてもらえる と思っている学生	頑張っているのに 成績が上がらない学生	授業を欠席しがちの学生	授業に集中できない学生
①最初のアプローチ ・最初の第1声 ・アイスブレイク ・演出 ・環境づくり など	・何のために大学進学を選んだのか？を聞く。 ・「昔の大学はね。」から話を始める。 ・どうしてうちの講座に来たの？ ・ 傾聴	・勉強時間を聞く ・得意な科目は？ ・どう勉強しているの？ ・ 傾聴	●接点あり ・メールで近況をたずねる ・呼び出す ・友達経由で近況を把握する ・他の先生経由で呼び出す ●接点なし ・メールで叱判する ・非常識な時間のあいさつには目をあわさない（メッセージを送る）	・聞きたくないなら聞かなくてもいい」という。 ・「出てけ！」と注意 ・何か心配なことがあるのかを聞く
②学生から悩みや課題を引き出す 効果的な質問・対話とは？	・「まず調べる」と言う ・「自分で考える！」と注意する ・調べ方を伝える （例：PUBMEDの使い方） ・「～について教えて」と言う	・他の学生と同じくらい深く深く勉強している？ ・「何の科目が苦手？」	●接点あり ・根気強く連絡をとる ・複数の教員が個別に話を聞く ●接点なし ・やる気になるまで放置！！ ・アルバイトやクラブ活動を知る	・隣の講座の先生にも注意してもらう
③学生に変化と行動を促す アドバイスや教育コーチングとは？ ・例示、質問 ・褒め、励まし など	・最初に自分を考えを言わせる ・僕も分からないから調べて教えてという ・実験結果を学生と一緒にディスカッション、初めに学生の意見を述べさせる。 ・→調べさせる →こちらの意見をまとめて次どうするか考えさせる	・目標をさめる ・研究室のOBにアドバイスしてもらう	・アルバイトやクラブ活動を知る ・タイムレコーダーで管理 ・学生間で連絡 ・家での勉強量と大学での勉強量の差を自覚させる	・時間を決めてけじめをつけさせる。 ・Refreshさせる
④面談後のフォローの在り方は？ ・日々の声掛け ・次の接触 など	・研究ノートをチェックする （自分でまとめさせる） ・問題提起のみする →学生自身が問題解決する	・結果を見て褒める ・ 頑張るだけでは意味がなく、成果に学がることの意味があることを理解させる。	・出席日数、単位に関してシビアな対応に統一 （留年、卒延、など）	・「今日は集中していたね」 「今日はイマイチだったね」など評価してあげる。

テーマ②	【4年後期以降】 講座配属			
投入ケース 対応が必要な学生例（ペルソナ）	教員から すべてを教えてもらえる と思っている学生	頑張っているのに 成績が上がらない学生	授業を欠席しがちの学生	授業に集中できない学生
①最初のアプローチ ・最初の第1声 ・アイスブレイク ・演出 ・環境づくり など	・現状をたずねる。何を勉強しているのかを聞く ・薬剤師になりたいかたずねる ・どんな薬剤師に ・2人器で話す ・6年卒試、国試にむけてどのようなスタンスで勉強したいか計画を立てさせる ・ふだんから話しかける	・どんな薬剤師に ・ふだんから話しかける ・とにかく声かけをする。学生を気にしているよと思ってもらえるようなアプローチ ・安心感を与える ・学生の生活背景をcheekする ・薬剤師になりたいかたずねる ・2人器で話す	・薬剤師になりたいかたずねる ・2人器で話す ・どんな薬剤師になりたいか？	・どんな薬剤師になりたいか？ ・本人の自覚を促す
②学生から悩みや課題を引き出す 効果的な質問・対話とは？	・オープンエーションどうしたいか聞く ・目標に自分で気づくように ・自分の勉強法を振り返ってもらう →自身で反省する	・自分の勉強法を振り返ってもらう →自身で反省する	・欠席する理由を聞く ・将来どうするの？何をしたいか聴く	・将来どうするの？何をしたいか聴く
③学生に変化と行動を促す アドバイスや教育コーチングとは？ ・例示、質問 ・褒め、励まし など	・振り返りを一緒に行う ・卒業研究によりしぶんで考える力を身につけてもらう ・研究ディスカッションをひんばんに ・先パイに聞く 自分が上になった時後パイに教える ・とりあえず自分で考えた答えを出してもらう ・たまに姿を消す（指示せず）	・たまに姿を消す（指示せず） ・学生同士で問題を出し合う ・学習スケジュールを提出させる ・毎日勉強したことを報告させる ・ポートフォリオを書かせる	・講座で週1回ハッピーフライデーで宴会！！ ・家庭訪問 ・生活習慣を聞く！相談にのる	・生活習慣を聞く！相談にのる ・将来像・将来何をしたいかじっくり話し合う！！ ・9：30～19：00までスマホ回収
④面談後のフォローの在り方は？ ・日々の声掛け ・次の接触 など	・研究ノートを作製させる 1日目 ギモンを書く 2日目 自分で調べる 3日目 Discassion ・日々の声掛け	・そっとしておく（精神的に追い込まない） ・頑張っているのに頑張れと言わない	・連絡をとり続ける ・とにかく、呼び出し話し合う！	・永平寺1週間修行！！

テーマ③			あらたな成長支援機会の創出
検討事項	授業内	授業外	
①教員で出来る事	・実務実習において学生同士で手段の確認評価を行う ・実務実習において患者の視点にたった学生確認評価を行う ・実務実習終了後に作問してもらい次の年に活かす ・教える時間を作る ・海外事例の紹介 ・個別質問表を全体にフィードバックさせる ・実践的な課題を出す（レポート） ・他大学の事例紹介	・学会につれていく ・孤立学生の声かけ支援 ・アドバイザー面談日時を月 1 回作り、学生の目標について話し合う ・アドバイザーの面倒をしっかりと見る	
②在学生を巻き込んで出来る事	・全学年の縦割り（+卒業生）活動で1年後をイメージさせる ・実務実習を終えた（または途中）の5年生が低学年生に薬剤師の仕事について語る ・苦手科目について先輩からテスト合格のポイントについて相談する時間を作る ・歯学部学生との交流（PBL） ・歯学部薬料衛生との合同会議 ・教えあう	・アドバイザーの2年生から4年生で飲み会 ・研究室の見学時、配属学生による研究内容の紹介 ・学生主体の研究会をつくる ・半期に一度上の学年の授業に参加する ・講座のOB会を開き、社会を教えてもらう ・薬局・病院に行った後にアンケート記入（患者として医療人を評価、フィードバックする） ・出身地域ごとの県人会の飲み会をする ・部活の充実 ・アドバイザーの指名制の確立（学生から教員を指名する）	
③保護者を巻き込んで出来る事	・製薬会社に勤務している保護者に話をしてもらう ・薬剤師以外の保護者に薬剤師について語ってもらう ・保護者に介護が必要になった時に保護者の要求とその対応を考える ・保護者への開放会議 ・保護者による授業参観	・家庭で行っている学習サポートについて保護者でSGDを行い発表してもらう ・薬剤師以外の職についている保護者による早期体験学習 ・生活習慣の見直しが必要な場合、連携をとる ・薬剤師の保護者による早期体験学習（薬局・病院以外も含めて） ・学年横断型の保護者交流（先輩保護者から情報をもらう） ・家庭教師をやってもらう ・保護者面談InTe r net経由 ・学生による体験講義の実施 対保護者や対地域、対高校生 オープンキャンパス利用	
④地域、企業を巻き込んで出来る事	・地域の名士による講義 ・患者にさんによる講義（体験談） ・薬の開発のエピソードを	・ボランティア活動 ・地域の健康推進活動のボランティアに年 1 回参加する ・薬局・ドラッグストアでのアルバイトを義務化する ・地域の薬剤師、他大学の学生（医療など）との交流の場を設ける ・学生による体験講義の実施 対保護者や対地域、対高校生 オープンキャンパス利用 ・千種薬剤師会と共同での地域医療支援活動	

テーマ③			あらたな成長支援機会の創出
検討事項	授業内	授業外	
①教員で出来る事	・将来の薬剤師像について具体化する機会を作る ・授業を10回などで終わらせて、残りは府学生の能力別で講義する ※数人の教員で共有すれば負担は変わらない	・教員の人数を増やす（法人） ・学生の定員を減らす（法人） ・ウェルカムパーティーなどを行う ・イベントを増やしてたと横のつながりを作る ボーリングのような ・アドバイザー飲み	
②在学生を巻き込んで出来る事	・上級生勉強方法について在学生に依頼する機会を作る ・授業で学んだところなどのようなところに役立つのか。5年の実習終わった学生が後輩に話す機会を作る ・ゼミ合宿 1 週間たてしな！！	・ゼミ合宿 1 週間たてしな！！ ・学習支援室 学生が学生を指導できるようにする ・アドバイザー 個人の面談カード（・勉強の仕方・将来）を作る（学生に持たせる）←3カ月に一回くらい学生に面談の機会を設けて、相談内容を自分で記入してもらう ・ノーベル賞薬学賞創設 優れた発表に賞金を与える！！ ・部活動（文系）を充実にする→上下のつながりが強くなる。勉強などについて、先輩から情報を聞くことができる ・オープンキャンパスにOB在校生を呼ぶ（上下のつながり） ・国際交流の機会を増やす（チャンス）	
③保護者を巻き込んで出来る事	・授業参観 ・宿題を出す（講義ごと） ・保護者用ポートフォリオの提出（メンタル等） ・授業料について学生自身に考えてもらう	・授業料について学生自身に考えてもらう ・1日1回保護者と薬について会話してもらう	
④地域、企業を巻き込んで出来る事	・現場の薬剤師の声を伝える機会を作る ・現場の声を早いうちから聞かせてもらう ・3、4年生でも早期体験実習に参加できるようにする ・早期・中期・後期 体験学習を行う時期を考える	・インターシップを利用する ・他大学の薬学生とのディスカッション ・ボランティア活動部を作る（薬学部） ・同窓会の企画によるモチベーションアップ ・高校生に対して薬学部について講義 薬学部で学ぶ意味について（目的のしっかりしてないと学べない）	